

2026年

# 風光れ

人権のたより

通算第92号 5月 8日発行

三重県立津東高等学校

早いもので、入学式、始業式からもう一か月。1週間後には中間テストです。みなさん準備は万全でしょうか。

○「人を知る」ということ ～『葬送のフリーレン』が問いかける時間と尊厳～

「もっと知ろうとすればよかった。」(フリーレン/ヒンメル死後の回想より)

最近話題となっているアニメ『葬送のフリーレン』。

魔王討伐後から始まるこの物語の主人公、エルフのフリーレン。

千年以上を生きる彼女にとって、人間の寿命はあまりにも短い。

一緒に魔王を討伐した仲間ヒンメルの死をきっかけに、フリーレンはその事実を実感します。彼女は後悔します。「知っている」と思っていたが、実は「知ろうとしていなかった」のではないかと。

私たちはどうでしょうか。「いつでも話せる」「まだ時間はある」と思い、目の前の誰かを後回しにしてはいないでしょうか。人権とは法律や制度の問題であると同時に、「その人を一人の存在として理解しようとする姿勢」の問題でもあります。

時間の長さは平等ではありません。しかし、向き合おうとする姿勢は選ぶことができます。違う世代、違う背景、違う価値観。その違いを理由に距離を置くのか、それとも理解の入り口にするのか。

「もっと知ろうとすればよかった」という言葉は、後悔の言葉であると同時に、今を生きる私たちへの問いかけでもあるのではないのでしょうか。



○それぞれの「母の日」それぞれの「きもち」

日本を含む多くの国々で5月の第二日曜日が「母の日」として設定されています。そして、母の日が近くなると、「お母さんに感謝しよう」という言葉をよく見かけるようになります。しかし、その言葉が少し重く感じられる人もいるかもしれません。なぜなら、家族のかたちは一つではなく、誰もが同じように「ありがとう」と言える関係にいるとは限らないからです。

たとえば、忙しくてなかなか会話ができない家庭や、気持ちをうまく伝えられない関係もあるでしょう。また、そばに母親がいない人や、別の大人に支えられている人もいるかもしれません。ただ、そうした違いは、比べられるものではなく、それぞれが大切にされるべきものだと思います。

大事なものは、かならず「こうあるはず」と決めつけられないことではないのでしょうか。誰かの当たり前が、別の誰かにとっては当たり前ではない。そのことに気づくだけで、見える景色は少し変わるのではないのでしょうか。

母の日は、誰かに感謝を伝える日であると同時に、自分や周りの人のあり方を静かにかんがえる機会にもなります。言葉にするかどうか、何を思うかも含めて、一人ひとりの選び方が尊重されるとき、少しだけ生きやすい空気が広がるのかもしれない。

